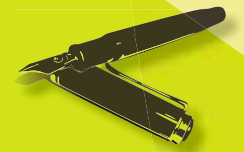


世界へ飛び出せ！ 明大生 —協定校留学日記—



Vol.12 スウェーデン・リンシェーピン大学
やりたいことは全部やる！

文学部4年
石川 瑛士



スウェーデン北部のキルナで念願のオーロラ観賞



帰国直前に色々お世話になった親友と



広大な敷地を持つキャンパスは常に学生で賑わう

私は2015年8月から今年5月までの約9か月間、スウェーデンのリンシェーピン大学に留学しました。リンシェーピンはスウェーデンでも比較的大きな都市ですが、少し中心街を外れると森や小麦畑が広がっていて、夜は満点の星空を見ることができました。東京で生まれ育った私にとってはこの上なく贅沢な大自然でした。

スウェーデンは「平等」を重視する非常に住みやすい国でした。特に男女の平等に関しては日本の数十年先を進んでいると感じました。また、スウェーデンは人口対比の移民の受け入れが欧州で一番多い国です。この考えは、個人を尊重し男性も女性も年齢も関係なく平等であるべきであるという考え方が根付いているからだと感じました。国民性は少し日本に似ていると思います。初対面の相手にはとてもシャイですが仲良くなるととにかくよく喋ります。Fikaというティータイムの文化が根付いているのもこの国の魅力の一つでした。

Profile

石川 瑛士
Akito Ishikawa

1994年生まれ東京都出身
文学部文学科英米文学専攻4年
所属ゼミ：久保田俊彦ゼミ（コーパス言語学）
「先生のための教育辞典EDUPEDIA」で活動中



ブラッスバンドサークルのクリスマス公演

さて、私は「教育を学べることを軸に協定校を選定しました。その中でもリンシェーピン大学を選んだ理由は、授業以外の活動も充実している点が非常に魅力的だった。さて、私は「教育を学べることを軸に協定校を選定しました。その中でもリンシェーピン大学を選んだ理由は、授業以外の活動も充実している点が非常に魅力的だった。

たからです。国際交流が盛んな大学で、欧州の留学生はもちろんアジアからの留学生も多く、国際性に富んだ環境で学ぶことができました。また、日本語を学び日本に留学をすることを必須としたコースもあるのです。スウェーデン人の友人を作りやすい環境でもありました。学習面に関しては、日本とは違い自主的に学ぶことが求められる授業形態で最初は戸惑いました。というのも授業自体は週に3回程度しかなく、あとの時間は自分でグループワークをしたり、自分で気になる論文を読んだりする必要がありました。特に私の在籍

していた教育学部は、各国から教員志望の学生や教育系の仕事に就きたい学生が来ていたので興味分野が同じ分、話していても面白かったです。

楽を続けるために飛び込みました。が、なんと私以外全員スウェーデン人で、当然練習はすべてスウェーデン語で行われます。孤独感すら感じる環境でしたが、何とか譜面を通じてコミュニケーションを取り2回ステージにも立つことができました。これから先、どんな逆境に立たされても何とかできる精神力がほしい気がします。

にしてください。私は明治大学で得た全ての経験を活かし、明治大学の代表として広く社会に貢献できるように、これからも「前へ」進み続けていきます。最後になりましたが、全ての面においてお世話になった国際教育事務室の皆様、資金面の援助をしてくださった父母会の皆様をはじめ今回の留学にあたり支援をくださった全ての方に感謝申し上げます。

特に印象に残っている授業は「Teaching practice（教育実習）」です。私の場合は現地の公立中学校で、英語の先生のアシスタントとして20日間、実習を行いました。英語が母国語ではない国ですが、中学生もある程度は英語を使いこなすことができます。しかし、実習当初は「なにこの外国人？」という感じでなかなか生徒と話すごとができず、苦労しました。そこでまずは日本に興味を持ってもらおうと、日本の文化や食事を紹介したりして徐々に距離を縮め、最終的には担当の先生に6分1コマの授業を全て任せていただけのま

私は在学中、自分の「個」を磨くために「やりたいことは全部」挑戦してきました。特に留学に関しては、外部の英語試験の勉強をしつつ留学のための資金は全額自分で用意しました。挑戦の数だけもちろん失敗もありましたが、振り返ってみるとその全てが今の自分をつくりあげているかけがえのない経験だったと感じています。留学でなくても構いません、今何かに挑戦しようとしている人は、その志を持ち続け諦めずにやり遂げてほしいと強く感じます。一度しかない学生生活です、自分自身で最高のもの

課外活動としてブラッスバンドサークルに所属していました。元々吹奏楽をやっていたので、音

になりませんでした。



シェアメイトはかなりグローバル